

発表題目：伝統文化の資源化に伴う人間関係の対立とその解決策
—現代中国における陳氏太極拳の師弟関係を事例として—

所属： 関西学院大学社会学研究科博士後期

氏名： 範麗娟

1200 字程度で発表内容を記載してください。

本研究は、伝統文化が現代社会において経済的資源として再評価される過程で、伝統文化の継承方法である師弟関係という人間関係がどのように変容し、その変容に伴う対立がどのように発生し、またその対立がどのように解決されるかを検討するものである。

本研究では、中国の伝統武術である陳氏太極拳を具体例として取り上げる。陳氏太極拳は中国河南省焦作市温県の陳家溝を起源とする武術であり、17 世紀に創始されて以来、陳家溝の陳氏宗族によって継承されていた。しかし、1980 年代の中国改革開放政策の影響により、多くの外国人武術愛好者の訪問したことがきっかけとなり、陳氏太極拳は国内外で広まり始めた。この動きと並行し、1980 年代末に、陳氏宗族の太極拳代表者が、宗族外の練習者との連携を強化するため、初版の師弟系譜を構築した。

しかし近年、この構築された師弟関係に起因する紛争が顕在化している。中国における市場経済の発展に伴い、武術指導が生計手段となり得る状況が生まれた。武術の経済的資源化が進行する中で、指導者らが自分の正統性を主張する必要に迫られた。それに伴い、師弟関係も経済的資源として扱われるようになった。

本研究では、師弟関係の資源化に伴う紛争として、以下の問題を取り上げる。

第一に、伝承順位をめぐる紛争である。この紛争は、武術家間の認識の違いや、系譜の認定基準の不統一が要因となっている。特に、初版の師弟系譜が構築された後、さまざまなバージョンの系譜の誕生が問題となっている。第二に、流派間の正統性をめぐる紛争である。陳氏太極拳には「大架式」と「小架式」という2つのスタイルがあり、それぞれの練習者が自らの正統性を主張することで紛争が生じている。第三に、家元制度をめぐる紛争である。歴史的には、陳氏太極拳における家元制度は存在しなかったが、2018 年頃に一部の代表的な指導者によって提唱された。しかし、これは全ての陳氏太極拳の関係者に認められているわけではない。最後に、師弟関係の濫用に関する問題である。弟子の認定基準が曖昧であり、特に現代社会では、経済的な動機が加わった結果、師弟関係の濫用が問題視されている。

これらの問題に対する解決策として、武術家や地方政府はそれぞれの方法で対応している。武術家は自らの正統性をアピールするために、師弟系譜や伝承順位の再構築・再解釈を行っている。彼らは新たなバージョンの師弟系譜を活用するだけでなく、伝承順位を記した記念碑も設立し、所属する太極拳教室のホームページでも自身の伝承順位を強調している。地方政府はメディア会社に「中華太極拳伝承系譜」のプロジェクトを依頼し、全ての太極拳指導者の情報や伝承順位を統一的に電子データ化している。また、地方政府は伝統的な伝承順位に代わる措置として、現代的な武術認定資格制度を導入し、武術指導者の能力を公式に認定する仕組みを構築している。

以上のように、これらの紛争は主に武術が経済的資源としての地位を確立する過程で浮き彫りとなったものである。各主体は紛争の解決策を模索しているものの、完全な解決には至っていない。しかし、本研究を通じて、武術に限らず、広く集団間の対立を解決するための知見が得られることを期待している。